

◆市立図書館のサービスが充実

# 図書館に行けないあなたに朗報です

久留米市は、図書館を利用する人の希望や実態を調べ、休館日の変更や貸し出し・返却の新たなサービスを開始。図書館がさらに使いやすいくなります。

## 六ツ門図書館が月曜に開館

図書施設は市内の10カ所にあります。くるるん図書コーナーと男女平等推進センターの図書情報ステーションを除くと、全図書館が月曜休館でした。そのため、理・美容業や飲食店など、月曜が休みの人から利用しにくいという声が寄せられていました。

そこで、4月から六ツ門図書館の休館日を水曜に変え、月曜に開館します。開館時間は10時から20時まで。日曜と祝日は18時までです。

便利な場所にできたね♪



司書村上希望さん

貸出期間は配送の期間を含めて22日。読んだ後は、期限までに元払いで送るか、図書館の窓口やブックポストに返してください。障害のある人などは別の無料宅配制度があります。

中央図書館 ☎0942・38・7116、FAX 0942・38・7183

司書 井手友子さん

## JR久留米にポストリベールも便利に

「毎日とにかく忙しい」「返却期限が近いけど、開館時間に行けない」。そういう人は多いようです。

そこで、多くの人が通勤・通学で使うJR久留米駅に、本を返すためのブックポストを置きました。

さらに、リベール5階のくるるん図書コーナーに置いていたブックポストを、1階西鉄久留米駅側玄関内へ。利用時間は8時から20時までに拡大しました。

## 家に本が届く有料宅配サービス開始

仕事や子育て、介護など

で図書館までなかなか行けない。でも本を借りたいという人向けの貸し出しサービスも始めました。市内の図書施設で所蔵している本や雑誌を、郵送で貸し出し返却ができます。

いつでも借りられる安心感があります



図書館マスコットキャラクター「ブックン」



◆熊本地震から3年

# 「災害が起きたら」を家族・近所で話そう

震度7を2度経験した熊本地震から今月で3年。今も多くの人々が仮設住宅で暮らし、復旧工事はまだ半ばです。生活の不便は解消されていません。

## 道路や河川復旧6割今年度が追い込み

久留米市は、被害の大きかった熊本県益城町に職員を派遣しています。平成30年4月から派遣されている土木職の北順一朗さんは、道路や河川の復旧業務に従事。「今も仮設住宅には3600人以上が暮らしています。道路や下水道の復旧は約6割。熊本城と同じく、益城町も以前の状態には戻っていません」。

北さんは、同町の生活がこの1年で大きく改善したとは言えないと感じます。道路工事は地中に埋められたインフラの工事後にしか着工できず、いまだ迂回路が各所に。一方で、町の計



工事の完了検査をする北さん（左）

画では、31年度までに復旧工事を完了する予定です。「復旧予算は今年度まで。追い込みです」。

北さんが一番伝えたいメッセージは、自助・共助の大切さ。「当時、住民の自主的な防災の取り組みが不十分で、近所の人々の安否確認すらできなかったそう。行政の支援は地震発生直後には届かない。家族で、地域で、起こった時のことを話し合ってください」。

防災対策課 ☎0942・30・9074、FAX 0942・30・9712

## 被災地の復興へ2人を追加派遣

久留米市は、地震や豪雨の被災地に、4人の職員を派遣しています。今年度新たに朝倉市と倉敷市に各1人の派遣を決定。3月28日、本庁舎で壮行式が行われました。

朝倉市に派遣される塚本昇一さん（農村整備課）は、「杷木地区は私の地元。これまで被害状況を見てきました。派遣をうれしく思い、頑張ろうと思えます」と意気込みました。



壮行式に出席した倉敷市に派遣される野田光星さん（左）と塚本さん



益城町内を流れる秋津川に架かる橋と護岸の工事の様子